

# オガサワラカワラヒワ

【学名：Chloris kittlitzi】

愛称：オガヒワ



絶滅が危惧される  
オガサワラカワラヒワ  
を守ろう！



オガヒワの会  
公益財団法人 山階鳥類研究所



小笠原  
世界自然遺産  
十周年

## オガサワラカワラヒワとは？

### ■分類

以前はカワラヒワ *Chloris sinica* の 1 亜種であると考えられていましたが、現在はカワラヒワとの遺伝的、形態的な違いから、独立種オガサワラカワラヒワ *C. kittlitzi* であると考えられています。

### ■固有種

この鳥は 100 万年以上前に小笠原諸島にやってきて、島の特殊な環境で進化してきた固有種です。日本には固有種の鳥は他に 10 種しかいません。この鳥は小笠原だけでなく日本の鳥類相を代表する鳥の 1 つなのです。

### ■価値

この鳥は小笠原を代表する森林である「乾性低木林」に適応して進化しました。小笠原諸島世界自然遺産の価値の中心とされている乾性低木林の生態系にとって、欠かすことのできない存在です。同じく小笠原の代表的な「湿性高木林」に住む固有種メグロと対になる種です。

### ■特徴

全長 13cm ほど。成鳥では、本州のカワラヒワよりもオリーブグリーンの色味が強く、雄の方がその特徴が顕著。幼鳥は下面に縦の縞模様があります。体の大きさは本州のカワラヒワよりも小さいです。

### メグロとの比較



メグロ  
母島列島にしか生息しない  
特別天然記念物の貴重な鳥。

◀メグロとオガサワラカワラヒワは、ほぼ同じ全長だが、メグロは尾が長い。カワラヒワの体は“ずんぐりむっくり体形”といえる。



オガサワラカワラヒワ  
(雄)



## 生態・進化

### 1. 大きなくちばし

くちばしは本州のカワラヒワよりも長く、大きい。これは樹木の大きな種子を食べるための進化でしょう。



▲オガサワラカワラヒワ

▲本州のカワラヒワ

### 2. 大きな卵を少なく産む

本州のカワラヒワは、一回に 3~6 卵の卵を産みますが、オガサワラカワラヒワは 3~4 卵と少ない数の卵を産みます。そのかわり、1 卵あたりの卵重の平均は 1.99g とカワラヒワの平均 1.80g よりも重い卵を産みます。

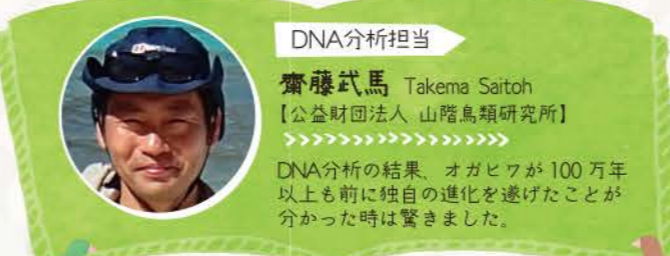
### 3. 樹木の種子を食べる

ほぼ完全に種子食で、草や樹木の種子を食べます。カワラヒワは主に草の種を食べますが、オガサワラカワラヒワは樹木の種子も食べられるように進化しました。これは小笠原独特の森林景観である乾性低木林への適応といえます。



▲食物の種子の一つ、ムニンアオガンドの実

▲バジルの実を食べる様子



DNA分析担当

齋藤武馬 Takema Saitoh  
【公益財団法人 山階鳥類研究所】

DNA分析の結果、オガヒワが100 万年以上も前に独自の進化を遂げたことが分かった時は驚きました。

### 4. 巣

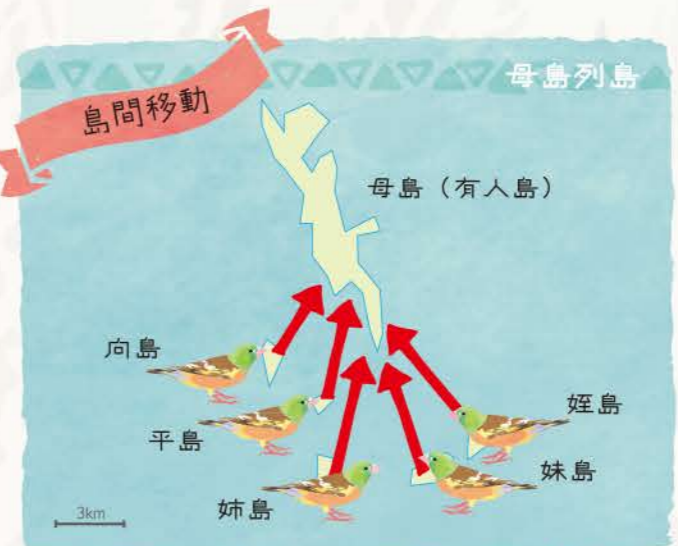
オガサワラカワラヒワの巣は、本来は様々な在来種の樹上に造られるのですが、現在はそのほとんどが外来種であるトクサバモクマオウの樹の枝にかけられています。この樹が直立に立って生える性質があるので、木登りが不得意なドブネズミの襲撃を受けにくいためと考えられています。



▲トクサバモクマオウの樹上で見つかった古巣

繁殖シーズンあたりの繁殖回数は 1 回のみと考えられていますが、繁殖生態については未だ謎が多く、よく分かっていません。

4~6 月の繁殖期は母島の属島で繁殖していますが、繁殖が終わると母島に移動する個体があります(下図)。これは、母島が食物や水がより豊富であるためと考えられています。



## オガサワラカワラヒワを守るために！

オガサワラカワラヒワを守るために、  
あなたの力が必要です！

オガヒワに関する情報を随時発信しています！

ご寄付など、オガサワラカワラヒワに関するお問合せは  
オガヒワの会の連絡先までお願いします。

オガヒワの会  
Ogahiwa society



オガヒワの会は、人知れず絶滅の道を辿っていたオガサワラカワラヒワの現実を、より多くの人に知ってもらい、関わってもらうために活動を始めました。



公式 HP  
<https://ogahiwanoikai.jimdofree.com>  
〒100-2211 東京都小笠原村母島字元地  
Email : [ogahiwa@gmail.com](mailto:ogahiwa@gmail.com)



公式 Twitter  
@OgahaHiwa



公式 Instagram  
ogahiwanoikai

制作・発行  
オガヒワの会・公益財団法人 山階鳥類研究所  
写真協力：齋藤武馬・川上和人・川口大朗・向 哲嗣・佐々木哲朗  
デザイン：林 けい子

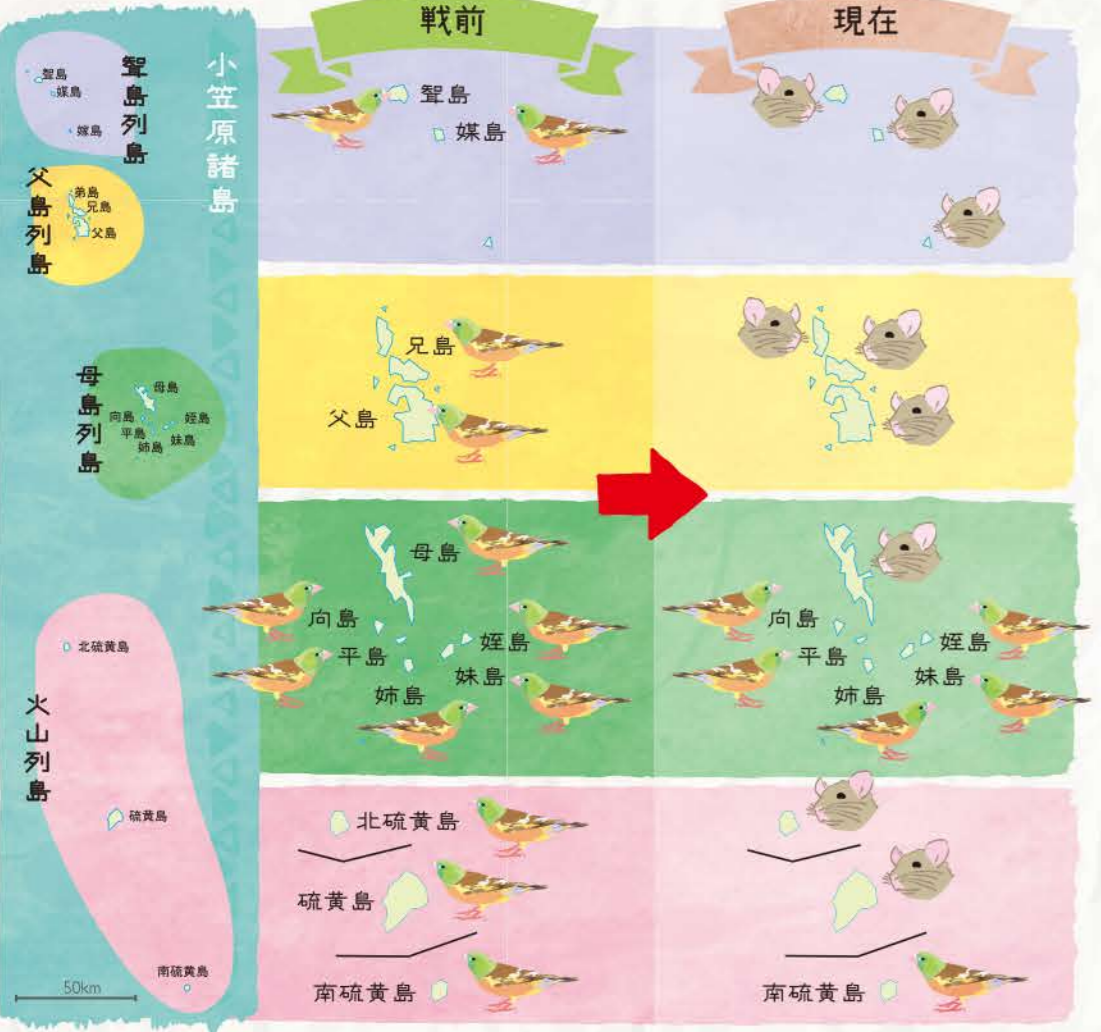
このパンフレットはサントリー  
世界愛鳥基金の助成を受けて作  
成しました。



2021年3月現在

■分布縮小の原因

巣の捕食者となる外来種クマネズミが侵入した島ではこの鳥が絶滅しました。また、聳島列島や父島列島では、外来種ノヤギにより繁殖地の森林が破壊されました。



▲ノヤギの食害により森林が失われた碓島

島名 クザイモン

この鳥は小笠原ではクザイモンと呼ばれていました。小笠原には八丈島由来の方言が多く、これもその一つです。八丈島ではカワラヒワをシンドードリやデアコクリャーメなどとも呼んだそうですが、いずれも語源が知りたいですね。地域名があるということは、それだけ身近な鳥だったのだと考えられます。



マッコヨクザイモン オガヒワの妖怪。全てを筋肉で解決するタイプ。

■現在の減少の原因

母島列島では、属島における外来種ドブネズミによる巣の捕食、母島における外来種ノネコによる成鳥や若鳥の捕食、台風、干ばつ等の気象要因による食物の減少、個体数の少なさに伴う近交弱勢など、様々なリスクにさらされています。



島で始まった活動

母島では大人だけでなく子供たちも活動を起こしています。母島小中学校では、子供ワークショップが行われました。ここでは、1.愛称、2.宣伝方法、3.探す方法について真剣に話し合われました。また、地元の子供サッカークラブ「FCフォルサ母島」では、オガヒワの保全を応援するため「TEAM KUZAIMON」を結成しました。もちろん大人たちも活動をスタートしています。母島観光協会では、オガサワラカワラヒワのイラスト入り缶バッジを販売し始めています。また、隣の父島でも地元のお菓子屋さんの「トマトン」ではオガヒワクッキーを、「マーマイドカフェ」ではオガヒワパウンドケーキが販売されるようになりました。



オガヒワの会代表、情報発信担当 向 哲嗣 Akitsugu Mukai 【アイランズケア】

この鳥について、その大切さと現状を多くの皆さんに知ってもらいたいと思っています！

こちらもチェック！

【オガサワラカワラヒワー絶滅阻止限界点への挑戦ー】 <https://ogasawara-kawarahiwa.jimdofree.com>



オガサワラカワラヒワ保全計画作りワークショップ 2020 に向けて実行委員会が作成したウェブサイト。ワークショップ、生態、脅威、取り組み (2020~2021.1) についてはこちら！

■保全上のランク

- ★絶滅危惧 1A 類 (CR) (環境省レッドリスト)
- ★国内希少野生動植物種 (絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律)

■推定個体数

現在は母島列島、火山列島の個体群を合わせても、繁殖個体数は全体で 200 羽程度しかいないと考えられています。

■ワークショップ

2020 年に地域住民、研究者、行政機関、環境保全団体など多くの関係者が参加して「オガサワラカワラヒワ保全計画作りワークショップ」が行われ、オガサワラカワラヒワの現状と今後の保全計画について、議論が行われました。そこでの結果を基に、保全対策の優先順位が決められ、今後の保全におけるアクションプランが策定されました。2021 年から本格的な保全活動が動き出しています。



▲オンラインワークショップの様子



WS 実行委員長、生態研究担当 川口大朗 Dairo Kawaguchi 【アイランズケア】

オガヒワが絶滅しないように、無人島にて個体数や生態を調べていきます！

■研究

個体数の変化、食物、遺伝的多様性など、保全に必要な情報を得るための調査が進められています。

■ネズミ対策

オガサワラカワラヒワにとって、安全に繁殖ができる生息環境を整備するため、まずは繁殖地である、母島属島でネズミ類 (ドブネズミ) の駆除を行います。現在、環境省の保全事業によって、向島のネズミ駆除が実施されています。



▲鳥が食べないよう、殺鼠剤はケースに入れて設置する

■ネコ対策

非繁殖期に利用される母島では、ネコによる捕食がオガサワラカワラヒワにとって脅威となっています。飼われているネコは外に出さないようにすること、また、野生化したノネコに関しては捕獲して順化し、人間の元で過ごすことができるようにする「小笠原ネコプロジェクト (<https://www.ogasawaraneko.jp>)」がすすめられています。



▲ネコかご設置の様子

■その他の取組み

- ・域外保全  
いつ絶滅してもおかしくないほどの数しかいない野外個体群だけでは、保全がうまくいかない可能性もあるため、オガサワラカワラヒワを飼育・繁殖させて、数を増やす「域外保全」も計画されています。
- ・普及活動  
2021 年 1 月に発足した、オガサワラカワラヒワを守るための市民団体である、「オガヒワの会」の活動を通して、地域に根ざした保全活動の推進と情報発信、啓発活動が開始しています。